

がん診療連携拠点病院等 現況報告書

令和6年9月1日時点について記載

※チェック欄に未入力なし

1. 推薦区分

現行の指定区分

都道府県がん診療連携拠点病院

都道府県がん診療連携拠点病院

承認あり

承認なし

(承認あり／承認なし)

(承認あり／承認なし)

令和7年4月1日以降の指定更新を希望しない場合は選択してください
また、その場合は推薦区分に現行の指定区分を便宜的に選択してください

※推薦時点で、拠点病院等として指定を受けていない施設を推薦する場合は、G6セルで「新規指定推薦」を選択してください。

※令和7年4月1日以降の指定更新を希望しない施設においては、K5セルで「指定辞退」を選択してください。

2. 病院概要

(1)病院名（表紙シートの病院名を反映）	熊本大学病院	13	
よみがな	くもとだいがくびょういん	14	✓
(2)所在地		15	
郵便番号	〒860-8556	16	
住所	熊本県 熊本市中央区本荘1-1-1	17	✓
よみがな	くまもとしちゅうおうくほんじょう	18	✓
電話番号（代表）	096-344-2111	19	✓
FAX番号（代表）	096-373-5952	20	✓
e-mail（代表）	ryo-shien@jmu.kumamoto-u.ac.jp	21	✓
HPアドレス	https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/	22	✓
所属するがん医療圏	熊本	23	✓
所属する2次医療圏	熊本	24	✓
(3)病床数等		25	
①病床数		26	
総数	845 床	27	✓
うち療養病床	0 床	28	✓
うち一般病床	795 床	29	✓
うち特別療養環境室としての病床	185 床	30	✓
うち集中治療室（※特定集中治療室管理料を届け出ているものに限る）	15 床	31	✓
②外来化学療法室	20 床	32	✓
(4)職員数	総職員数（事務職員含む、常勤職員の数） 1992 人	33	✓
・常勤：原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。		34	
①職種別内訳		35	
※複数の資格を有する者は、主たる業務に係る職種についてのみ記載。	非常勤	36	
※（常勤換算）	常勤	37	
医師	26.4 人	38	555 人
歯科医師	0.6 人	39	38 人
薬剤師	0.8 人	40	70 人
保健師	0 人	41	0 人
助産師	1.2 人	42	31 人
看護師	23.9 人	43	789 人
准看護師	0 人	44	0 人
理学療法士	0 人	45	19 人
作業療法士	0 人	46	10 人
視能訓練士	0 人	47	6 人
言語聴覚士	0.2 人	48	6 人
義肢装具士	0 人	49	0 人
歯科衛生士	0 人	50	2 人
歯科技工士	0 人	51	1 人
診療放射線技師	0 人	52	46 人
臨床検査技師	4.1 人	53	63 人
衛生検査技師	0 人	54	0 人
臨床工学技士	1.7 人	55	26 人
管理栄養士	0 人	56	13 人
栄養士	0 人	57	0 人
社会福祉士	0.2 人	58	7 人
精神保健福祉士	0 人	59	4 人
公認心理師	0.5 人	60	4 人
介護福祉士	0 人	61	0 人
救命救急士	0 人	62	1 人
※②～④については、複数の資格を持つものは、両方にカウントする。	非常勤	63	
②医師等の専門性に関する資格名に該当する人数等について	※（常勤換算）	64	
一般社団法人 日本内科学会 内科専門医	0 人	65	0 人
公益社団法人 日本小児科学会 小児科専門医	0.3 人	66	24 人
公益社団法人 日本皮膚科学会 皮膚科専門医	1.8 人	67	10 人
公益社団法人 日本精神神経学会 精神科専門医	0.1 人	68	6 人
一般社団法人 日本外科学会 外科専門医	2.7 人	69	42 人
公益社団法人 日本整形外科学会 整形外科専門医	0.6 人	70	22 人
公益社団法人 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医	1.3 人	71	14 人
公益社団法人 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医	0 人	72	4 人
公益財団法人 日本眼科学会 眼科専門医	1.8 人	73	8 人
一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 耳鼻咽喉科専門医	0.7 人	74	10 人
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医	0 人	75	3 人
一般社団法人 日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医	0.8 人	76	11 人
一般社団法人 日本泌尿器科学会/日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医	0 人	77	5 人
一般社団法人 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	0.4 人	78	16 人
公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線科専門医	0 人	79	0 人
一般財団法人 日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR専門医	0 人	80	3 人
一般社団法人 日本核医学会 核医学専門医	0 人	81	2 人

一般社団法人	日本核医学会	PET核医学認定医	0	人	3	人	87	✓
公益社団法人	日本麻酔科学会	麻酔科専門医	1.2	人	24	人	88	✓
一般財団法人	日本ペインクリニック学会	ペインクリニック専門医	0	人	3	人	89	✓
一般社団法人	日本集中治療医学会	集中治療専門医	0	人	4	人	90	✓
一般社団法人	日本病理学会	病理専門医	0	人	3	人	91	✓
公益社団法人	日本臨床細胞学会	細胞診専門医	0	人	3	人	92	✓
一般社団法人	日本臨床検査医学会	臨床検査専門医	0	人	1	人	93	✓
一般社団法人	日本救急医学会	救急科専門医	0	人	5	人	94	✓
一般社団法人	日本形成外科学会	形成外科専門医	0	人	3	人	95	✓
一般社団法人	日本形成外科学会	皮膚腫瘍外科指導専門医	0	人	2	人	96	✓
公益社団法人	日本リハビリテーション医学会	リハビリテーション科専門医	0.4	人	3	人	97	✓
一般社団法人	日本内科学会	総合内科専門医	3.1	人	80	人	98	✓
一般社団法人	日本消化器病学会	消化器病専門医	3.3	人	37	人	99	✓
一般社団法人	日本循環器学会	循環器専門医	0.4	人	23	人	100	✓
一般社団法人	日本呼吸器学会	呼吸器専門医	0.8	人	17	人	101	✓
特定非営利活動法人	日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医	0	人	7	人	102	✓
一般社団法人	日本血液学会	血液専門医	1	人	17	人	103	✓
一般社団法人	日本造血・免疫細胞療法学会	造血細胞移植認定医	0	人	4	人	104	✓
一般社団法人	日本内分泌学会・日本糖尿病学会	内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医	0	人	0	人	105	✓
一般社団法人	日本神経学会	神経内科専門医	0	人	9	人	106	✓
特定非営利活動法人	日本脳神経血管内治療学会	脳血管内治療専門医	0	人	5	人	107	✓
一般社団法人	日本脳卒中学会	専門医	0.2	人	13	人	108	✓
一般社団法人	日本腎臓学会	腎臓専門医	0.5	人	15	人	109	✓
一般社団法人	日本透析医学会	透析専門医	0.5	人	13	人	110	✓
膠原病・リウマチ内科領域専門医			0	人	0	人	111	✓
一般社団法人	日本リウマチ学会	リウマチ専門医	0.2	人	7	人	112	✓
一般社団法人	日本消化器外科学会	消化器外科専門医	1.4	人	20	人	113	✓
一般社団法人	日本消化器外科学会	消化器がん外科治療認定医	1.4	人	20	人	114	✓
一般社団法人	日本肝胆膵外科学会	高度技能指導医	0	人	6	人	115	✓
一般社団法人	日本肝胆膵外科学会	高度技能専門医	0	人	0	人	116	✓
一般社団法人	日本大腸肛門病学会	大腸肛門病専門医	0	人	1	人	117	✓
呼吸器外科専門医合同委員会	呼吸器外科専門医		0	人	7	人	118	✓
特定非営利活動法人	日本気管食道科学会	気管食道科専門医	0	人	5	人	119	✓
心臓血管外科専門医認定機構	心臓血管外科専門医		0	人	3	人	120	✓
一般社団法人	日本小児外科学会	小児外科専門医	0	人	2	人	121	✓
一般社団法人	日本乳癌学会	乳腺外科専門医	0	人	0	人	122	✓
一般社団法人	日本乳癌学会	乳腺専門医	0	人	3	人	123	✓
特定非営利活動法人	日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ読影認定医師	0	人	1	人	124	✓
特定非営利活動法人	日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ読影認定医師	0	人	2	人	125	✓
公益社団法人	日本医学放射線学会	放射線診断専門医	0	人	19	人	126	✓
公益社団法人	日本医学放射線学会	放射線治療専門医	0	人	4	人	127	✓
一般社団法人	日本アレルギー学会	アレルギー専門医	0	人	5	人	128	✓
一般社団法人	日本感染症学会	感染症専門医	0	人	4	人	129	✓
一般社団法人	日本老年医学会	老年科専門医	0	人	1	人	130	✓
公益社団法人	日本臨床腫瘍学会	腫瘍内科専門医	0	人	0	人	131	✓
一般社団法人	日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	2.7	人	68	人	132	✓
特定非営利活動法人	日本臨床腫瘍学会	がん薬物療法専門医	0	人	3	人	133	✓
一般社団法人	日本内分泌外科学会	内分泌外科専門医	0	人	1	人	134	✓
一般社団法人	日本肝臓学会	肝臓専門医	1.8	人	25	人	135	✓
一般社団法人	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡専門医	1.8	人	22	人	136	✓
一般社団法人	日本内分泌学会	内分泌代謝科専門医	0.4	人	8	人	137	✓
一般社団法人	日本糖尿病学会	糖尿病専門医	0.7	人	11	人	138	✓
一般社団法人	日本内視鏡外科学会	呼吸器外科領域 技術認定取得者	0	人	0	人	139	✓
一般社団法人	日本内視鏡外科学会	産科婦人科領域 技術認定取得者	0	人	0	人	140	✓
一般社団法人	日本内視鏡外科学会	消化器・一般外科領域 技術認定取得者	0	人	11	人	141	✓
一般社団法人	日本内視鏡外科学会	泌尿器科領域 技術認定取得者	0	人	5	人	142	✓
特定非営利活動法人	日本緩和医療学会	緩和医療専門医	0	人	1	人	143	✓
一般社団法人	日本禁煙学会	認定専門指導者	0	人	2	人	144	✓
一般社団法人	日本生殖医学会	生殖医療専門医	0	人	1	人	145	✓
一般社団法人	日本がん・生殖医療学会	認定がん・生殖医療ナビゲーター	0	人	0	人	146	✓
一般社団法人	日本人類遺伝学会	臨床遺伝専門医	0.2	人	4	人	147	✓
一般社団法人	日本超音波医学会	超音波専門医	0.2	人	4	人	148	✓
公益社団法人	日本口腔外科学会	口腔外科専門医(医師)	0	人	0	人	149	✓
一般社団法人	日本病理学会	口腔病理専門医(医師)	0	人	0	人	150	✓
							151	
歯科医師							152	
公益社団法人	日本口腔外科学会	口腔外科専門医(歯科医師)	0.2	人	5	人	153	✓
一般社団法人	日本病理学会	口腔病理専門医(歯科医師)	0	人	0	人	154	✓
							155	
看護師(公益社団法人日本看護協会認定)							156	
がん看護専門看護師			0	人	3	人	157	✓
精神看護専門看護師			0	人	2	人	158	✓
地域看護専門看護師			0	人	0	人	159	✓
老人看護専門看護師			0	人	0	人	160	✓
急性・重症患者看護専門看護師			0	人	1	人	161	✓
感染症看護専門看護師			0	人	0	人	162	✓
家族支援専門看護師			0	人	0	人	163	✓
在宅看護専門看護師			0	人	0	人	164	✓
遺伝看護専門看護師			0	人	0	人	165	✓
放射線看護専門看護師			0	人	0	人	166	✓
クリティカルケア認定看護師 または 救急看護認定看護師 または 集中ケア認定看護師			0	人	3	人	167	✓
緩和ケア認定看護師 または がん性疼痛看護認定看護師			0	人	3	人	168	✓
がん薬物療法看護認定看護師 または がん化学療法看護認定看護師			0	人	2	人	169	✓
在宅ケア認定看護師 または 訪問看護認定看護師			0	人	0	人	170	✓
生殖看護認定看護師 または 不妊症看護認定看護師			0	人	1	人	171	✓
摂食嚥下障害看護認定看護師 または 摂食・嚥下障害看護認定看護師			0	人	1	人	172	✓
皮膚排泄ケア認定看護師			0	人	2	人	173	✓

感染管理認定看護師	0	人	3	人	174	✓
手術看護認定看護師	0	人	1	人	175	✓
乳癌看護認定看護師	0	人	0	人	176	✓
認知症看護認定看護師	0	人	1	人	177	✓
がん放射線療法看護認定看護師	0	人	0	人	178	✓
						179
③その他専門的技術・知識を有する医療従事者	非常勤		常勤		180	
※(常勤換算)						181
一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	0	人	4	人	182	✓
一般社団法人 日本医療薬学会 がん専門薬剤師	0	人	1	人	183	✓
一般社団法人 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	0	人	2	人	184	✓
一般社団法人 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	0	人	0	人	185	✓
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	0	人	9	人	186	✓
放射線治療品質管理機構 放射線治療品質管理士	0	人	4	人	187	✓
日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	0	人	8	人	188	✓
一般財団法人 医学物理士認定機構 医学物理士	0	人	3	人	189	✓
公益社団法人 日本臨床細胞学会 細胞検査士	0	人	9	人	190	✓
一般社団法人日本人類遺伝学会及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー	1	人	1	人	191	✓
一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー	0	人	0	人	192	✓
一般社団法人 日本病態栄養学会/ 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士	0	人	2	人	193	✓
四病院団体協議会／医療研修推進財団 診療情報管理士	0	人	20	人	194	✓
一般社団法人 日本生殖心理学学会 がん・生殖医療専門心理士	0	人	0	人	195	✓
						196
④その他の従事者						197
診療録管理部門の職員	0	人	18	人	198	✓
公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	0.2	人	0	人	199	✓
臨床試験コーディネーター	0	人	19	人	200	✓
(5)その他						201
①夜間(深夜も含む)救急対応の可否			可	(可／否)	202	✓
②各種委員会の設置状況						203
倫理審査委員会	あり	(あり／なし)	年 10	回開催(期間:令和5年1月1日～12月31日)	204	✓
治験審査委員会	あり	(あり／なし)	年 12	回開催(期間:令和5年1月1日～12月31日)	205	✓
医療安全委員会	あり	(あり／なし)	年 13	回開催(期間:令和5年1月1日～12月31日)	206	✓
感染管理委員会	あり	(あり／なし)	年 12	回開催(期間:令和5年1月1日～12月31日)	207	✓
						208
(6)患者数・診療件数の状況						209
① 患者数等 (期間:令和5年1月1日～12月31日)						210
年間入院患者延べ数※1		19931	人		211	✓
年間入院がん患者延べ数※2		5055			212	✓
年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合		25.4	%		213	
年間外来がん患者延べ数※3		58110	人		214	✓
年間院内死亡がん患者数		88	人		215	✓
※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合は2件とする。入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1日として計上する。 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診断されたものについて計上すること。 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再来がん患者及び往診、巡回診療、健康診断、人間ドック等を行い、診療録の作成または記載の追加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。						216
						217
						218
② 検査等の実施状況						219
ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日～12月31日)						220
病理組織診断		12025	件		221	✓
病理細胞診断		5993	件		222	✓
病理組織迅速組織顕微鏡検査		821	件		223	✓
						224
(7)グループ指定について						225
①地域がん診療病院とグループ指定を受けている。			いいえ	(はい／いいえ)	226	✓
グループ指定を受けている場合、グループ指定先の医療機関名を記入すること。グループ指定を受けていない場合、「指定なし」と記入すること。なお、令和7年4月1日時点でグループ指定の組み合わせが変更される予定がある場合は、新旧両方のグループ指定先医療機関名を記入すること。			指定なし		227	✓
②がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。			いいえ	(はい／いいえ)	228	✓
グループ指定を受けている場合、グループ指定先の医療機関名を記入すること。グループ指定を受けていない場合、「指定なし」と記入すること。なお、令和7年4月1日時点でグループ指定の組み合わせが変更される予定がある場合は、新旧両方のグループ指定先医療機関名を記入すること。			指定なし		229	✓
						230
(8)各治療の状況について						231
手術等の状況						232
大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵がんに関する悪性腫瘍の手術件数(令和5年1月1日～12月31日)						233
大腸がん(C18\$, C19, C20, D01.0, D01.1, D01.2)の手術件数						234
開腹手術 K7193, K739\$, K740\$		17	件		235	✓
腹腔鏡下手術 K719-3, K740-2\$		132	件		236	✓
うち、内視鏡手術用支援機器を用いるもの(ロボット支援手術)		25	件		237	✓
内視鏡手術 K721\$, K721-4, K739-2, K739-3		415	件		238	✓
肺がん(C34\$, D02.2)の手術件数						239
開胸手術 K511\$, K514\$, K518\$		38	件		240	✓
胸腔鏡下手術 K514-2\$		263	件		241	✓
うち、内視鏡手術用支援機器を用いるもの(ロボット支援手術)		16	件		242	✓
胃がん(C16\$, D00.2)の手術件数						243
開腹手術 K654-2, K6552, K655-42, K6572		16	件		244	✓
腹腔鏡下手術 K654-3\$, K655-22, K655-52, K655-23, K655-53, K657-22, K657-24, K657-23		56	件		245	✓
うち、腹腔鏡下手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの(ロボット支援手術)) K655-23, K655-53, K657-24		18	件		246	✓
内視鏡手術 粘膜切除術(EMR) K6531		8	件		247	✓
内視鏡手術 粘膜下層剥離術(ESD) K6532		83	件		248	✓
乳がん(C50\$, D05\$)の手術件数						249
手術 K476\$		392	件		250	✓
乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2		0	件		251	✓
乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$		15	件		252	✓
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3\$		95	件		253	✓

乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの K476-32	1	件	254	✓
前立腺がん(C61)の手術件数			255	
開腹手術 K843	0	件	256	✓
腹腔鏡下手術 K843-2、K843-3、K843-4	38	件	257	✓
うち、腹腔鏡下手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの(ロボット支援手術)) K843-4□	38	件	258	✓
肝臓がん(C22\$, D01.5)の手術件数			259	
開腹手術 K695\$	49	件	260	✓
腹腔鏡下手術 K695-2\$	74	件	261	✓
うち、内視鏡手術用支援機器を用いるもの(ロボット支援手術)	0	件	262	✓
マイクロ波凝固法 K697-2\$	0	件	263	✓
ラジオ波焼灼療法 K697-3\$	85	件	264	✓
胆のうがん(C23)の手術件数			265	
開腹手術 K675\$	5	件	266	✓
腹腔鏡下手術 K675-2	7	件	267	✓
胆管がん(C240、C241、C248、C249)の手術件数			268	
開腹手術 K677、K677-2	8	件	269	✓
膵臓がん(C250、C251、C252、C253、C254、C257、C258、C259)の手術件数			270	
開腹手術 K700-2、K702\$, K703\$, K704	44	件	271	✓
腹腔鏡下手術 K700-3、K702-2\$, K703-2\$	64	件	272	✓
うち、内視鏡手術用支援機器(ロボット支援手術)を用いて行った件数	12	件	273	✓
放射線治療の状況			274	
※以下、放射線治療件数に関する項目は、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。			275	
全てのがんを対象としたのべ患者数 (令和5年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			276	
体外照射	818	人	277	✓
定位照射(脳)	59	人	278	✓
定位照射(体幹部)	40	人	279	✓
強度変調放射線治療(IMRT)	360	人	280	✓
粒子線治療(重粒子線、陽子線治療)	0	人	281	✓
密封小線源治療	16	人	282	✓
核医学治療	87	人	283	✓
我が国に多いがんを対象としたのべ患者数 (令和5年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			284	
※原発集に記載してください。			285	
肺がん	109	人	286	✓
胃がん	6	人	287	✓
肝がん	26	人	288	✓
大腸がん	4	人	289	✓
胆のう・胆管がん	10	人	290	✓
膵臓がん	15	人	291	✓
乳がん	14	人	292	✓
前立腺がん	39	人	293	✓
緩和ケアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日～12月31日)			294	
身体症状の緩和を行った症例数	450	人	295	✓
精神症状の緩和を行った症例数	324	人	296	✓
社会的苦痛に対する緩和を行った症例数	60	人	297	✓
自施設で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日～12月31日)			298	
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数	1	人	299	✓
上記のうち、精巢内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数	0	人	300	✓
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵の凍結保存を行った患者の人数	5	人	301	✓
がんの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数	0	人	302	✓
がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数	0	人	303	✓
			304	
がん患者の造血器腫瘍に対する自家造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	305	✓
がん患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	306	✓
がん患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	307	✓
			308	
(9)小児がん患者への対応について			309	
院内学級を開催している(院内学級とは、ここでは院内に設置された小・中学特別支援学級、特別支援学校を指す)。	はい	(はい/いいえ)	310	✓
小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院内に整備している。	いいえ	(はい/いいえ)	311	✓
小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外に整備している。	はい	(はい/いいえ)	312	✓
小児がん患者と家族が利用できる院外の最寄宿泊施設から自施設までの移動時間(該当施設がない場合には0を記入)	7	分	313	✓
			314	
(10)その他の施設について			315	
集中治療室を設置している。	はい	(はい/いいえ)	316	✓
緩和ケア病棟を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	317	✓
緩和ケア病棟を有する場合、別紙Gに詳細を記載すること。			318	

様式4(機能別)

項目	指針の箇所	要件	要件区分	令和6年9月1日時点の状況	備考欄
105		ア 青少年・難治がんの患者の診断・治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対応可能な施設への紹介やコンサルテーションで対応している。	A	はい	
106		イ 小児がん患者で長期フォローアップ中の患者については、小児がん拠点病院や連携する医療機関と情報を共有する体制を整備している。	A	はい	
107		ウ 地域のがん・生腫瘍ネットワークに加入し、「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」へ参加するとともに、対象とならざる患者や家族には必ず治療開始前に情報提供している。	A	はい	
108		エ 患者の希望を確認するとともに、がん治療を行う診療科が中心となつて、院内または地域の生腫瘍医療に関する診療科とともに、妊孕性温存療法及びがん治療後の生活援助医療に関する情報提供及び意見交換支援を行う体制を整備している。	A	はい	
109		オ 自施設において、がん・生腫瘍医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めている。	A	はい	別紙10に詳細を記載してください。
110		エ 妊娠、妊孕性の温存、アビラシスケア等に関する状況や本人の希望についても確認し、自施設もしくは連携施設のがん相談支援センターで対応できる体制を整備している。	A	はい	妊孕性・子どもを授けるために必要な能力のこと。精子や卵子だけではなく、性機能や生殖器、内分泌機能も重要な要素である。アビラシスケア：医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補正し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのこと。
111		それらの相談に応じる多職種によるAYA世代支援チームを配置している。	C	はい	別紙10に詳細を記載してください。
112		一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会の開催する「AYA世代がサポート研修会」を受けた院内の診療従事者の人数（※ AYA世代支援チームに在籍する者に限らない）	-	0	
113		オ 高齢者のがんに関して、併存症の治療との両立が図れるよう、関係する診療科と連携する体制を構築している。	A	はい	
114		意思決定能力を含む機能評価を行い、各診療科にラインに沿って、適切な支援策を決定し対応している。	A	はい	
115		エ 高齢者ががん患者に関して、必要に応じて高齢者総合機能評価を行っている。	A	はい	別紙10に詳細を記載してください。
116		イ 医療機関としてのBCPを策定している。	B	はい	
117	(2) 診療従事者				
118	(1)	① 専門的な知識及び技能を有する医師の配置 ※以下、常勤職員の人数を回答する項目において、非常勤職員を常勤換算して常勤職員と合算することは不可です。			
119		ア 当該施設で対応可能ながんについて専門的な知識及び技能を有する手術療法に携わる常勤の医師の人数	A	237	常勤：原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。
120		イ 専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	18	※一人以上の配置が必要である。 専任：専任とは当該診療の実施を専ら担当していることをい。この場合において、「専ら担当している」とは、その他診療を兼任しているも差し支えないものとする。ただし、その就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事している必要があるものとする。
121		ウ 専任の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	4	専任：専任とは当該診療の実施日において、当該診療に専ら従事していることをいう。この場合において、「専ら従事している」とは、その就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に従事していることをいう。
122		エ 専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	2	※一人以上の配置が必要である。
123		オ 緩和ケアチームに配置されている、専任の身体状況の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	2	※一人以上の配置が必要である。
124		緩和ケアチームに配置されている、専任の身体状況の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	C	0	
125		緩和ケアチームに配置されている、専任の身体状況の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	C	0	
126		緩和ケアチームに配置されている、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	1	※一人以上の配置が必要である。
127		緩和ケアチームに配置されている、専任の精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	C	0	
128		カ 専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	10	※一人以上の配置が必要である。
129		キ ケンコーに携わる専門的な知識及び技能を有する医師の人数	C	4	
130	(2)	② 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置			
131		ア 放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の診療放射線技師の人数	B	6	※二人以上の配置が望ましい(*)。少なくとも一人の配置は必要である。
132		上記の診療放射線技師のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数	C	3	
133		専任の放射線治療における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の技術者等の人数	A	5	※一人以上の配置が必要である。
134		上記の技術者のうち、医学物理学に関する専門資格を有する者の人数	C	3	
135		放射線治療部門に配置されている、専任の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の有識者の人数	A	1	※一人以上の配置が必要である。
136		上記の有識者のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数	C	0	
137		イ 専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師の人数	A	17	※一人以上の配置が必要である。
138		上記の薬剤師のうち、がん薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	C	7	
139		外来化学療法室に配置されている、専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師の人数	A	1	※一人以上の配置が必要である。
140		上記の看護師のうち、がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	C	1	
141		ウ 緩和ケアチームに配置されている、専任の緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の有識者の人数	A	3	※二人以上の配置が必要である。
142		上記の有識者のうち、がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	A	3	
143		エ 緩和ケアチームに配置されている、緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する薬剤師の人数（他職種との兼任を可とする。）	A	4	※一人以上の配置が必要である。
144		上記の薬剤師のうち、緩和薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	C	0	
145		緩和ケアチームに配置されている、相談支援に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数（他職種との兼任を可とする。）	A	3	※一人以上の配置が必要である。
146		上記の相談支援に携わる者のうち、社会福祉士である者の人数	C	0	
147		上記の相談支援に携わる者のうち、精神保健福祉士である者の人数	C	0	
148		オ 緩和ケアチームに協力する、公認心理師等の医療心理に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数	B	2	
149		オの医療心理に携わる者のうち、公認心理師である者の人数	-	2	
150		カ 専任の緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数	A	10	※一人以上の配置が必要である。
151		上記の緩和ケアに携わる者のうち、緩和ケアに関する専門資格を有する者の人数	C	6	
152		キ がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する理学療法士の人数	C	27	
153		がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する理学療法士の人数	C	17	
154		がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する作業療法士の人数	C	6	
155		がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する言語聴覚士の人数	C	4	
156	(3)	③ その他環境整備等			
157		① 表裏とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している。	C	はい	別紙10に詳細を記載してください。
158		② 集学的治療等の内容や治療後の生活における注意点等に関して、冊子や相談受取教材等を用いてがん患者及びその家族が自主的に確認できる環境を整備している。	A	はい	
159		③ その冊子や相談受取教材等はオンラインでも確認できる。	C	はい	
160		④ がん治療に伴う外見の変化について、がん患者及びその家族に対する説明やアビラシスケアに関する情報提供・相談に応じられる体制を整備している。	A	はい	
161		⑤ がん患者の自殺リスクに対し、院内で共通したフローを使用し、対応方法や関係機関との連携について明確にしている。	A	はい	別紙14に詳細を記載してください。
162		⑥ 対応方法や関係機関との連携について、関係機関に情報共有を行う体制を構築している。	A	はい	
163		⑦ 自施設に精神科	-	はい	
164		⑧ 自施設でがん患者の自殺リスクに対応できる。	-	はい	
165		自施設に精神科、心療内科等がない場合は、地域の医療機関と連携体制を確保している。	-	はい	自施設に精神科はあるが、自施設単体で対応できない場合も回答してください。
166	3 診療実績				
167	(1)				
168		同一のがん医療圏内にすでに指定されているがん診療連携拠点病院が存在している。	A	はい	
169	(1)	ア 院内がん登録数（基準：年間500件以上、期間：令和5年1月1日～12月31日）	A	3467	計上方法：入院、外来は問わない自施設初回治療分。症例区分20および30の数を用いる。
170		イ 悪性腫瘍の手術件数（基準：年間400件以上、期間：令和5年1月1日～12月31日）	A	2849	計上方法：医科診療報酬点数表第2章第10節に掲げる悪性腫瘍手術を用いる。（術後診断）により悪性腫瘍であることが確認された場合に限る。なお、内視鏡的切除を含む。
171		ウ がんに係る薬物療法のべ患者数（基準：年間1,000人以上、期間：令和5年1月1日～12月31日）	A	2317	計上方法：経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とする。ただし内分泌療法単独の場合は含めない。なお、患者数についてはレジスタレーションありとして計上する。
172		エ うち、外来化学療法法のべ患者数（期間：令和5年1月1日～12月31日）	-	1033	
173		オ 放射線治療のべ患者数（基準：年間200人以上、期間：令和5年1月1日～12月31日）	A	820	計上方法：医科診療報酬点数表第2章第12節の放射線治療に含まれるものとする。ただし、血液照射は除く。なお、患者数については複数患者に罹患する場合でも、一連の治療計画であれば1人として計上する。
174		イ 緩和ケアチームの新規入患者数（基準：年間50人以上、期間：令和5年1月1日～12月31日）	A	558	計上方法：患者数については同一入院期間内であれば複数回介入してでも1人として計上する。
175	(2)	当該がん医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合(%)	A	15.0	右図①(1)（参考：診療科別患者数）を「患者数」参照ください。 ①「①を概ね満たすこと」とについては、「アからオのそれぞれの割合が1以上であること」と定義される。ただし、血液照射は除く。なお、患者数については複数患者に罹患する場合でも、一連の治療計画であれば1人として計上する。
176		3(1)①または②を概ね満たすこと。 なお、同一がん医療圏に複数の地域拠点病院を指定する場合は、①の項目を全て満たすこと。	A	はい	
177	4 人材育成等				
178	(1)	自施設において、2に掲げる診療体制その他要件に関連する取組のために必要な人材の確保や育成に積極的に取り組んでいる。	A	はい	
179		特に、診療の質を高めるために必要と見られる、各種検査が読める資格等の取組についても積極的に実施している。	A	はい	
180		広域可能な資格を有する者のがん診療への配置状況について積極的に公表している。	A	はい	
181	(2)	病院長は、自施設においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師等の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師等の専門性を十分に発揮できる体制を整備している。	A	はい	
182	(3)	がん患者の診療に携わる医師のうち緩和ケアに関する研修の開催回数（平成29年12月1日付け療養1201第2号厚生労働省健康局長通知の別表）に準拠し、当該がん医療圏において緩和ケアに携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、都道府県と協議の上、開催している。	A	はい	
183		自施設の上長、および自施設に所属する臨床研修医及び1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師が当該研修を修了する体制を整備している。	A	はい	
184		実施率を現時点において以下の通り報告する。	A	はい	
185		令和6年9月1日時点で自施設に所属する初期臨床研修医の人数	A	24	
186		うち当該研修会修了者数	-	21	
187		1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師の人数（初期臨床研修医を除く）	-	875	
188		うち当該研修会修了者数	-	314	
189		研修修了者について、専任とその家族にに対してわかりやすく情報提供している。	A	はい	
190	(4)	連携する地域の医療機関におけるがん診療に携わる医師に対して、緩和ケアに関する研修の受講機理を行っている。	A	はい	
191	(5)	③のほか、当該がん医療圏においてがん患者の関与を促進し、がん医療の質の向上につながるよう、地域の診療従事者を対象とした研修やカンファレンスを定期的に開催している。	A	はい	
192	(6)	自施設が診療従事者等に対して、がん対策の目的や意義、がん患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している診療・医療支援の体制について学ぶ機会を年1回以上提供している。	A	はい	
193		自施設のがん診療に携わる全ての診療従事者が受講している。	C	はい	
194		令和5年1月1日～12月31日の開催回数	-	6	
195		令和5年1月1日～12月31日の期間に実施した研修のうち、代表的な内容を一つ記載してください。	-	緩和ケアチーム協力員合同会議	
196	(7)	院内の有識者を対象として、がん看護に関する総合的な研修を定期的に実施している。	A	はい	
197		令和5年1月1日～12月31日の開催回数	-	ライフステージに応じたがん患者の支援	
198		令和5年1月1日～12月31日の期間に実施した研修のうち、代表的な内容を一つ記載してください。	-		
199	(8)	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等でも実施されている研修に参加させている。	A	はい	
200		医科診療連携による口腔機能管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。	A	はい	

11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

様式4(機能別)

様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について

記載の有無: 入力済／未入力あり／不要

不要

病院名: 熊本大学病院
時期・期間: 令和6年9月1日時点

※様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見直し等について具体的に記載してください。
※通し番号については、様式4(機能別)シートのA列(左端)の番号を記入してください。
※令和6年9月2日以降に、要件の充足状況に変動があった場合には、別途、都道府県を通じて文書で厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課へ届け出てください。
※右上について、最初は「不要」と表示されます。様式4(機能別)を入力後に、上部にある「様式4(機能別)シート」の入力後、クリックしてください。ボタンを押してください。未充足要件が抽出されます。

	通し番号	令和6年9月1日時点で満たしていない要件 (通し番号を入力すれば、自動入力されます。)	現状の説明	充足見込み時期
例	120	専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	令和6年9月1日時点では専任の医師は配置できていない(兼任で配置している)。	令和7年3月1日段階での整備を行う予定である。
例	176	放射線治療のべ患者数 (基準: 年間200人以上、期間: 令和5年1月1日～12月31日)	令和5年〇月〇日～令和5年〇月〇日までの期間、放射線治療機器の入れ替えを行ったため同期間の治療ができなかった。令和5年〇月〇日以降は通常通りの治療を行っている。また、直近1年間の治療実績は〇件であった。	令和6年は基準の治療数を達成できる見込み。
例	278	治験を除く医薬品等の臨床研究を行っている。	日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けていない。	令和7年1月に日本医療機能評価機構の第三者評価を受審予定である。
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				

専門とするがんの診療状況

記載の有無：入力済／未入力あり

入力済

病院名： 熊本大学病院

時期・期間： 令和5年1月1日～12月31日

我が国に多いがんと、希少がんを含むそれ以外のがんの各がん種において、

■診断および初発例に対する各治療、再発例への治療について自施設の専門レベルを専門：◎、対応可：○、他施設へ紹介：△で記入してください。

・専門(◎)：当該がんを特に専門とする医師がおり、周囲の施設から患者を積極的に集めている

・対応可(○)：(積極的に患者を集めるわけではないが)受診された患者は自施設で標準的な対応(診断・治療)が可能である

・他施設へ紹介(△)：他の施設に紹介することに対応している

■診断あるいはいずれかの治療について、「専門◎」あるいは「対応可○」と記載した場合は、2022年、2023年の治療開始数(院内がん登録の、症例区分20, 21, 30)を、

国立がん研究センターにおいて計算し提供しますので記入不要です。その際には、より詳細な区分で集計します。

■備考には、手術・放射線・薬物療法以外で行っている治療や特に当該がん種に関する窓口などがあれば、記載して下さい。

■「臨床試験の実績の有無」については、過去5年間の臨床試験の参加実績の有無についてご記入ください(有・無)。

■特に明記されていないところでは、各臓器でリンパ腫を除く各部位のがんについてお答えください。

■通常初回治療として行われない治療については、記入不要です(グレー背景)。それ以外は全てご回答ください。

注1 専門(◎)：当該がんを特に専門とする医師がおり、周囲の施設から患者を積極的に集めている

対応可(○)：(積極的に患者を集めるわけではないが)受診された患者は自施設で標準的な対応(診断・治療)が可能である

他施設へ紹介(△)：他の施設に紹介することに対応している

注2 臨床試験＝治療であれば I ～Ⅲ相いずれでもよい。

	I 記載必須						I どれかに専門／対応可としたときは公開			
成人(15歳以上)	専門◎／対応可○／他施設へ紹介△(注1)						臨床試験(注2)の実績の有無	治療開始数		備考
	診断(生検等)	初発例への治療				再発例への治療		2022年	2023年	
		手術	放射線	薬物療法						
脳腫瘍(リンパ腫以外)	◎	◎	◎	◎	◎	有	(良悪性を別に集計表示)		脳神経外科	
脳腫瘍(リンパ腫)	◎	◎	◎	◎	◎	有			脳神経外科	
脊髄腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			脳神経外科	
眼腫瘍(眼瞼以外)	◎	◎	◎	△	△	無			眼科	
鼻腔・副鼻腔がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
口腔がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
咽頭がん(上・中・下)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(上・中・下咽頭を別に集計表示)		耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
喉頭がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
唾液腺がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
外耳道がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
頭頸部肉腫	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
甲状腺がん	◎	◎	◎	△	△	無			乳腺・内分泌外科	
乳がん	◎	◎	△	◎	◎	有			乳腺・内分泌外科	
気管がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			呼吸器外科	
非小細胞肺癌	◎	◎	◎	◎	◎	有			呼吸器外科	
小細胞肺癌	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
胸腺がん	◎	◎	△	◎	◎	無			呼吸器外科	
胸腺腫	◎	◎	△	◎	◎	無			呼吸器外科	
縦隔筋細胞腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
縦隔腫瘍(上記以外の腫瘍)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
中皮腫(胸膜)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
中皮腫(腹膜)	◎	△	△	△	△	無			呼吸器外科	
食道がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
胃がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
小腸がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
大腸がん(結腸・直腸)	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
肛門・肛門管がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
消化管間質性腫瘍(GIST)	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
消化管の神経内分泌腫瘍(NET／NEC)	◎	◎	◎	◎	◎	有	(NET/NECは別に集計表示)		消化器外科	
肝臓がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
胆のう・胆管がん	◎	◎	◎	◎	◎	有	(肝内、肝外を別に集計表示)		消化器外科	
膵臓がん(NET/NEC以外)	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
膵臓の神経内分泌腫瘍(NET／NEC)	◎	◎	◎	◎	◎	有	(NET/NECは別に集計表示)		消化器外科	
腹膜偽結状腫(他のがんの腹膜播種を除く)	◎	◎	◎	◎	◎	無			消化器外科	
デスモイド腫瘍	◎	◎	△	△	△	無			整形外科	
後腹膜肉腫	◎	◎	◎	◎	◎	無			消化器外科、整形外科、泌尿器科	
腎がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			泌尿器科	
褐色細胞腫・傍神経節腫瘍(頭頸部以外)	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科	
副腎皮質がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科	
腎盂尿管がん・膀胱がん	◎	◎	◎	◎	◎	有	(腎盂・尿管・膀胱は別に集計表示)		泌尿器科	
精巣腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	有			泌尿器科	
前立腺がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			泌尿器科	
子宮頸がん(上皮性)	◎	◎	◎	◎	◎	有			婦人科	
子宮体がん(上皮性)(子宮がん肉腫を含む)	◎	◎	◎	◎	◎	有			婦人科	
子宮肉腫	◎	◎	◎	◎	◎	有			婦人科	
卵巣がん、卵管がん、腹膜がん(上皮性)	◎	◎	◎	◎	◎	無			婦人科	
卵巣嚢腫・卵巣腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	有			婦人科	
外陰がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			婦人科	
四肢・表在体幹の悪性軟部腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			整形外科、放射線治療科	
四肢の悪性骨腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			整形外科、放射線治療科	
脊椎・骨盤の悪性骨腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			整形外科	
皮膚の悪性黒色腫	◎	◎	◎	◎	◎	有			皮膚科・形成外科	
皮膚がん(悪性黒色腫以外)	◎	◎	◎	◎	◎	有			皮膚科・形成外科	
悪性リンパ腫	◎	◎	◎	◎	◎	有			血液内科、放射線治療科	
急性白血病(骨髄性、リンパ性)	◎	◎	◎	◎	◎	有			血液内科	
慢性白血病(骨髄性、リンパ性)	◎	◎	◎	◎	◎	有			血液内科	
多発性骨髄腫	◎	◎	◎	◎	◎	有			血液内科、放射線治療科	
原発不明がん	○	○	○	○	○	無			消化器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科・形成外科、泌尿器科、小児科	
	専門◎／対応可○／他施設へ紹介△						治療開始数			
小児(15歳未満)	初発例への治療						臨床試験の実績の有無	2022年	2023年	備考
	診断(生検等)	初発例への治療				再発例への治療				
		手術	放射線	薬物療法						
小児脳腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			脳神経外科、小児科	
小児眼腫瘍	◎	◎	△	△	△	無			眼科、小児科	
小児悪性骨軟部腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			整形外科、小児科	
小児造血器腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	有			小児科	
小児固形腫瘍(脳・目・骨軟部以外)	◎	◎	◎	◎	◎	有			小児外科	

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

我が国に多いがんに対して、下の表に状況を記載してください。

我が国に多いがん	自施設で対応している診療内容について“○”を、 自施設で対応しない診療内容について“×”を入力してください。			自施設で対応していない診療内容についての連携先 (施設名・診療内容)
	手術療法	薬物療法	放射線療法	
(例) 膵臓がん	×	○	×	手術を要する膵臓がん患者は、連携する××病院に紹介している。 手術後の薬物療法については、自施設で対応している。
大腸がん	○	○	○	
肺がん	○	○	○	
胃がん	○	○	×	県内の放射線治療施設すべてと連携している。
乳がん	○	○	○	
前立腺がん	○	○	○	
肝がん	○	○	○	
胆のう・胆管がん	○	○	○	
膵臓がん	○	○	○	

カンファレンスについて

記載の有無: 入力済／未入力あり **入力済**

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※この別紙は任意記載です。整備指針Ⅱの2の(1)の①のウ及びⅥの2の(1)の①のオに定めるカンファレンスのうち、Ⅳについて記載してください。
なお、記載がない場合は、「記載なし」と記入してください。

Ⅳのカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。

定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。

月1回、定例の Cancer Board を開催し、緩和ケア、アピアランスケア、生殖医療、がん相談等の取組や課題について医師・看護師・薬剤師・事務等の多職種で共有する機会を設けている。

緩和ケア外来の状況

記載の有無:入力済／未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

1	緩和ケア外来が設定されている（はい／いいえ）				はい
2	緩和ケア外来の名称		緩和ケア		
3	担当診療科名		麻酔科		
4	緩和ケア外来の頻度（〇回／週）		5回／週		
5	主な診療内容・特色・アピールポイント		緩和ケアチームの医師が、身体・精神それぞれに対応いたします。		
6	緩和ケア外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	熊本大学病院ホームページの「がんセンター 緩和ケアについて」		
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/palliativecare/outline/outpatient.html		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい／いいえ）				はい
8	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい
	窓口の名称		緩和ケアセンター		
	電話番号		096-373-5637	（内線）	5637
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい
	窓口の名称		緩和ケアセンター		
	電話番号		096-373-5637	（内線）	5637
	祝祭日、年末年始以外の休み（創立記念日など）		なし		
10	緩和ケア外来の状況 期間: 令和5年1月1日～12月31日		以下については、自施設でがん診療を受けている患者について記載してください。		
			緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数		118 人
			緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数		1223 人
			以下については、緩和ケア外来受診まで自施設でがん診療を受けていなかった患者について記載してください。		
			地域の医療機関からの年間新規紹介患者数		0 人
			地域の医療機関からの年間受診患者のべ数		0 人

緩和ケア病棟の状況

記載の有無:入力済／未入力あり **入力済**

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟がありません	
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理		
3	緩和ケア病棟の形式		
4	緩和ケア病棟の病床数		床
5	緩和ケア病棟に入院した患者の申し込みから入院するまでの平均待機期間		日
	緩和ケア病棟の年間新入院患者数(令和5年1月1日～12月31日)		人
	緩和ケア病棟の年間死亡患者数(令和5年1月1日～12月31日)		人
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	アドレス	
7	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2
8	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)		
	窓口の名称		
	電話番号	(内線)	
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	
		アドレス	
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)		
	窓口の名称		
	電話番号	(内線)	
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	
		アドレス	
10	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室	
11	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など	

地域緩和ケア連携体制

記載の有無:入力済／未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

時点: 令和6年9月1日時点

【緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数】

令和5年1月1日～12月31日 自施設が主催したもの(※共催を含む)

1 回

地域内の他施設が主催したもの

2 回

注1) 多職種連携カンファレンスとは「地域全体の医療を推進するため地域医療を支える多施設かつ多職種の連携強化と顔の見える関係づくりを目的として、緩和ケアに関わる多職種の医療・介護従事者等が一堂に会する場」とする。

注2) 患者の退院支援カンファレンス等、患者個人の情報共有のために開催したカンファレンスは含まない。

【緊急緩和ケア病棟について(都道府県がん診療連携拠点病院のみ)】

・緊急緩和ケア病床数

1 床

・緊急緩和ケア病床の入院患者数(令和5年1月1日～12月31日)

0 人

【がんの難治性疼痛に対する神経ブロックについて】

・がんの難治性疼痛に対する神経ブロックについて、自施設で実施している。

はい

・がんの難治性疼痛に対する神経ブロックの提供実施延べ人数(令和5年1月1日～12月)

474 人

【自施設で実施できない場合には、連携している医療機関名等、がんの難治性疼痛に対する神経ブロックの提供における連携協力体制を記入】

緩和ケアチームのメンバーと活動

記載の有無: 入力済／未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

期間: 令和6年9月1日時点

緩和ケアチームのメンバーについて記載してください。

注) 常勤とは、原則として病院に定期的に勤務時間の主として勤務する者をいう。病院に定期的に医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、24時間以上勤務していても非常勤とする。

医師以外の診療従事者について(複数の資格を有する者は、主たる業務に係る職種についてのみ記載)

	職種	常勤 /非常勤	専門資格(取得している場合)
例	管理栄養士	常勤	がん病態栄養専門管理栄養士
1	看護師	常勤	がん看護専門看護師
2	看護師	常勤	がん性疼痛看護認定看護師
3	看護師	常勤	がん看護専門看護師
4	看護師	常勤	緩和ケア認定看護師
5	看護師	常勤	
6	社会福祉士	常勤	
7	薬剤師	常勤	
8	薬剤師	常勤	
9	薬剤師	常勤	
10	薬剤師	常勤	
11	歯科医師	常勤	
12	歯科医師	常勤	
13	歯科医師	常勤	
14	歯科衛生士	常勤	
15	歯科衛生士	常勤	
16	理学療法士	常勤	
17	管理栄養士	常勤	がん病態栄養専門管理栄養士
18			
19			
20			

緩和ケアチームの活動頻度について記載してください。(〇回/週(もしくは月、年)となるように入力してください。)

病棟ラウンドの頻度	3	回/週
カンファレンスの頻度	1	回/週

緩和ケアチームの活動内容について記載してください。

定期的な病棟ラウンド及びカンファレンスによる、依頼を受けていないがん患者も含めた苦痛の把握、適切な症状緩和に関する助言や指導等の方法や内容を記載してください。

緩和ケアチームへの依頼が未実施の場合でも、必要性や緊急性が高いと判断した症例に関しては適時、緩和ケアチームが医師や病棟スタッフに対し苦痛緩和に関する助言や指導を口頭で行い、その内容をカルテに記載する。また、緩和ケアチームスタッフが口頭で相談を受けた場合や緩和ケアチームの継続的な支援が必要と考えた場合は、電子カルテで緩和ケアチームへのコンサルトシートを提出するように

緩和ケアチームの看護師による、苦痛の把握の支援や専門的緩和ケアの提供に関する調整等、外来・病棟における看護業務の支援・強化の内容について記載してください。(記載例: 看護師を含む院内の全スタッフに対する苦痛の把握や専門的緩和ケアに関する研修会を実施。病棟ラウンド時に各病棟の看護師に対し、苦痛の把握について指導。)

苦痛を把握、対応するために緩和ケアスクリーニングの活用方法と事例検討会を2か月に1回緩和ケア協力員医師、薬剤師、看護師、相談

患者及び家族が利用可能なインターネット環境

記載の有無: 入力済／未入力あり **入力済**

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

1	入院患者とその家族が病室で利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい／いいえ)
	(上記が”はい”の場合に回答してください) 上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
2	(1が”はい”の場合に回答してください) インターネット環境が医療機器等に干渉しないよう、各種のガイドラインを参照している。	いいえ	(はい／いいえ)
	2が”はい”の場合に、参考としたガイドライン名を以下の欄に記入してください。		

がん患者の特性に応じた支援

記載の有無：入力済／未入力あり

入力済

病院名：熊本大学病院

時期・期間：令和6年9月1日時点

1	自施設でAYA世代のがん患者の支援を行っている	はい	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、自施設で行うことができる支援の内容を記載してください。		
	(例) AYA世代のがん患者の就労支援として月に●回の頻度で社労士の訪問を受けている。		
	AYA世代も含めたがん患者の就労支援をハローワークとともに月に2回の頻度で開催をしている AYA世代も含めたアピアランスケアの教室開催や相談があった場合のアピアランスケアを個別に実施している。AYA世代が対象となるウィッグが無料で利用できる情報についても情報収集して提供している。 AYA世代も利用できるサロンやピアサポートの情報提供をおこなっている。		
	自施設でAYA世代のがん患者に関する支援が行えない場合は、患者を紹介する等、AYA世代の支援で連携する施設名を記載してください。		
2	多職種からなるAYA支援チームを設置している。	いいえ	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、AYA支援チーム構成員の職種を記載してください。		
3	自施設で、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成・配置を行	はい	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成に関する取組状況を記載してください。		
	・妊孕性温存に関しての看護師向け研修を開催している。		
4	がん患者の妊孕性の温存に関する支援について、自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	※当院または他院より紹介を受けて、妊孕性温存治療、受精卵温存、卵巣摘出後に関するカウンセリング(がん・生殖医療相談)を行っている。 カウンセリング後、適切なある患者さまに本院を含めた、ART実施施設の紹介と胚や配子(未受精卵子・精子)、卵巣摘出などの凍結保存と長期管理を本院と県下のがん診療拠点施設、ART実施施設、自治体(熊本県)と連携しながら行っている。		
5	がん患者の就学に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	・就学に関しては、必要時に患者の了解を得て学校関係者との連携を個別のケース事に行っている。また就学前に患者家族、医療関係者、学校や地域の関係者とともにカンファレンスを開催している。		
6	がん患者の就業に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	・両立支援に関する相談で患者の希望があった場合には、産業保健総合支援センターにも相談できる体制を整えている。アドバイスを心得て患者が事業所とのやりとりについて行動できるように支援を行っている。 ・就労や再就職の希望がある場合に、患者の同意を得てハローワークと診療情報を共有し求人紹介に関する内容を双方に共有して患者の支援を行っている。		
7	がん患者のアピアランスケアに関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	・アピアランスケアに関しては、皮膚科医師やがんセンターの看護師、薬剤師、公認心理師、国立がん研究センターのアピアランス研修を修了したがんセンター看護師を中心とした多職種で、患者教室の支援を行っている。		
8	高齢のがん患者に関して、高齢者機能評価の実施状況や、評価を行う体制、人員の状況などについて記載してください。なお、ツールや尺度等を用いて高齢者機能評価を実施している場合は、そのツール等も記載してください。		
	実施していない。		

相談支援センターの相談件数と相談支援内容

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 熊本大学病院

期間: 令和5年1月1日～12月31日

※「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことをさしています。
「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことをさしています。なお、自施設と他施設のいずれでも診療を受けている患者・家族については、「自施設の患者・家族」に含めてください。
※本設問は相談支援センターでの相談件数及び体制についてお伺いしております。

●年間ののべ相談件数 3065 件

1. 相談件数(新規相談件数に限る)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	628
2	1以外の患者・家族・地域住民等	288
3	他の医療機関等の職員	158
	合計	1,074

●年間ののべ相談件数の内容についてそれぞれ相談件数を記載してください。
・項目の番号については、厚生労働省研究費補助金「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した「相談記入シート」を参考にしています。
・1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して構いません。なお、詳細なカウントの方法については「相談記入シート」をご参照ください。
https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/registration_sheet.html

相談内容	件数	相談内容	件数
01.がんの治療	204	15.食事・服薬・入浴・運動・外出など	47
02.がんの検査	29	16.介護・看護・養育	26
03.症状・副作用・後遺症	206	17-1.社会生活(仕事・就労)	187
03-01. 03のうち妊孕性・生殖機能	4	17-2.社会生活(学業)	23
03-02. 03のうちアビアランス	98	18.医療費・生活費・社会保障制度	776
03-03. 03のうち晩期合併症	0	19.補完・代替医療	7
03-04. 03のうち長期フォローアップ	3	20.生きがい・価値観	38
04.セカンドオピニオン(一般)	26	21.不安・精神的苦痛	390
05.セカンドオピニオン(受け入れ)	11	22.告知	5
06.セカンドオピニオン(他へ紹介)	9	23.医療者との関係・コミュニケーション	114
07.治療実績	4	24.患者-家族間の関係・コミュニケーション	76
08.臨床試験・先進医療	9	25.友人・知人・職場との関係・コミュニケーション	4
09.受診方法	38	26.患者会・家族会(ピア情報)	42
10.転院	177	88.不明	0
11.医療機関の紹介	83	99.その他(下段に自由記載してください)	74
12.がん予防・検診	5	グリーフケア	22
13.在宅医療	706		
14.ホスピス・緩和ケア	1200		

がん相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無:入力済／未入力あり 入力済

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

1	相談支援センターの名称	がん相談支援センター		
2	問い合わせ先電話番号	096-373-5676	(内線)	5976
	WebサイトのURL	https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/CancerSupport/center/about/		
3	■対面相談の実施（実施/未実施）	実施		
	予約の要否（必要/不要）	不要		
4	■電話相談の実施（実施/未実施）	実施		
	電話番号	096-373-5676		
	予約の要否（必要/不要）	不要		
	■FAX相談の実施（実施/未実施）	未実施		
	FAX番号			
	■電子メール相談の実施（実施/未実施）	未実施		
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください			
	■Web会議ツールを活用した遠隔相談の実施（実施/未実施）	実施		

がん相談支援センターの体制

記載の有無:入力済／未入力あり 入力済

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※様式4の回答と齟齬がないようにすること。
注1)「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。
注2)常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

■国立がん研究センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」について(がん相談支援センター内の人数)

対象者	人数
国立がん研究センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)～(3)の修了者数	4
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)(注1)	1
うち相談支援に携わる者の専従の人数(注1)	2
国立がん研究センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)および(2)のみの修了者数	0
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)(注1)	0
うち相談支援に携わる者の専従の人数(注1)	0

■定期的な知識の更新のための研修等(がん相談支援センター内の人数)

対象者	人数
①がん相談支援センターに配置されている相談支援に携わる者のうち、国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員継続研修の受講もしくは「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)および(2)の再受講をした人数※	1
②相談支援に携わる者のうち、上記以外の研修を受講した人数	3
②の具体例	がん看護学会、小児・AYA世代のがんの長期FUIに関する研修会

※がん相談支援センター相談員継続研修は令和5年度より廃止され、「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)(2)に統一されている

■がん相談支援センターの体制について

※以下の1～6に該当する人数は必ず記載すること。その他の体制についてはそれぞれ記載すること。
※専従・専任・その他については、当該の相談支援に携わる者が8割以上当該業務に従事している場合には専従、5割以上8割未満の場合は専任、5割未満の場合にはその他としてください。

	職種等	専従/専任/その他(注1)	人数	うち常勤の人数(注2)	両立支援コーディネーター研修を受講した人数
例	社会福祉士	専従	3	2	3
例	看護師	専任	2	1	2
1	社会福祉士	専従	0	0	0
2	社会福祉士	専任	0	1	0
3	社会福祉士	その他	0	0	0
4	精神保健福祉士	専従	0	0	0
5	精神保健福祉士	専任	0	0	0
6	精神保健福祉士	その他	0	0	0
7	看護師	専従	2	2	2
8	看護師	専任	0	0	0
9	看護師	その他	0	0	0
10	医療心理に携わる者	専従	0	0	0
11	医療心理に携わる者	専任	0	0	0
12	医療心理に携わる者	その他	0	0	0
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					

22					
23					

■がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制
整備していると回答した場合、記載すること。整備していない場合は、「整備していない」と記入すること。
※必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む

がん患者及びその家族ががん相談支援センターを訪問できる体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

・「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」の冊子を医師より手渡してもらいがん相談支援センターの紹介をしてもらう体制をとっており

■がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制

がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

・電話相談や対面相談で、今回の相談対応を受けてどのように感じられたかや、次の行動に結びつけることはできそうかを確認し相談対応

院内外のがん患者等からの相談に対応するための連携協力体制の状況

記載の有無：入力済／未入力あり

入力済

病院名：熊本大学病院

時期・期間：令和6年9月1日時点

●就労に関する連携協力体制

①専門家による相談会の開催回数

20 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

②専門家の職種（例：社労士、キャリアコンサルタント等を全て記載）

・ハローワークによる就労支援 (複数回答可)

●アピアランスケアに関する連携協力体制

アピアランスに関する相談を院内で対応している

はい (はい/いいえ)

院内でアピアランスケアに関する相談・支援を行っている部署

・緩和ケアセンター、化学療法センター、がん相談支援センター (複数回答可)

相談・支援の件数（がん相談支援センターでの件数は除く）

0 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

●がん患者の妊孕性温存に関する連携協力体制

①相談に対応している部署（例：がん相談支援センター、化学療法室等）

生殖医療、がん連携センター、緩和ケアセンター、がん相談支援センター、婦人科外来 (複数回答可)

①-1意思決定支援に関わる医療従事者による相談を院内で実施している

はい (はい/いいえ)

①-2意思決定支援に関わる医療従事者による相談を院外に依頼している

いいえ (はい/いいえ)

②がん患者の妊孕性温存のための生殖医療

②-1がん患者の妊孕性温存のための生殖医療を専門とする自施設内の部門へ紹介した患者の人数

0 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

②-2がん患者の妊孕性温存のための生殖医療を専門とする他施設へ紹介した患者の人数

0 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

③自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

いいえ (はい/いいえ)

③-1紹介先施設名（複数回答可）

いいえ (複数回答可)

④他の自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

いいえ (はい/いいえ)

④-1紹介先施設名（複数回答可）

いいえ (複数回答可)

⑤意思決定支援に関わる人材育成を実施している（「いいえ」の場合は⑤-1、⑤-2は「いいえ」を記入ください。）

⑤-1研修会を院内で実施している

いいえ (はい/いいえ)

⑤-2学会等の研修会への参加を励行している

いいえ (はい/いいえ)

いいえ (はい/いいえ)

●がん患者の自殺リスクに対する体制

院内で自殺リスクに対する研修を開いている。

いいえ (はい/いいえ)

●患者サロン等の開催状況

①患者サロンの開催件数

12 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

②患者会の開催件数

1 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

②-1患者会のうち、オンラインで開催した件数

0 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

③サポートグループが主催した研修の開催件数

0 (期間：令和5年1月1日～12月31日)

●がん患者団体との連携協力体制

①連携協力しているがん患者団体数

5

②連携協力しているがん患者団体

※代表的ながん患者団体のみ記載してください。

※患者団体の参加対象者が特定の疾患に限られていない場合には、「すべてのがん」と記載してください。

※「紹介の可否」には、患者さんや家族から、その団体について問い合わせがあった際、具体的な紹介ができるかどうかについて記載してください。

	連携協力しているがん患者団体		具体的な連携協力の内容	紹介の可否
	団体名	参加対象者の疾患名		
例	〇〇〇〇〇会	造血器腫瘍	患者会と共同で、月1回、患者サロンを開催している。	可
例	〇〇〇〇〇会	乳がん	相談支援センターで、週1回、2名ずつ、ピアサポーターとして活動してもらっている。	可
例	〇〇〇〇〇会	すべてのがん	年4回開催している市民講演会の開催への協力、また、演者として参加してもらっている。	不可
1	熊本がんサロン	すべてのがん	世話人と共同で月1回対面とオンラインにて開催している	可
2	乳がん悩み相談会	乳がん	現在は活動休止中	不可
3	スマイリーウィッシュ	乳がん	現在は活動休止中	不可
4	緑(まる)カフェ	すべてのがん	グリーフケアに関するご希望があった場合の連絡調整をおこなっている	可
5	熊本がんサロンネットワーク	すべてのがん	月に1回の各サロンの世話人の会議に、陪席として参加しており活動の協力を行っている	可
6	オブチューン患者家族の集い	膵臓腫	年に2回程度実施している	可
7				
8				
9				
10				
11				

がんの診療に関連した専門外来の問い合わせ窓口

記載の有無：入力済／未入力あり 入力済

病院名：熊本大学病院

時期・期間：令和6年9月1日時点

※ がん診療に関連した専門外来の「対象となる疾患名」の項目は、以下の表の疾患名を用いて記載してください。
表の中に、該当する病名がない場合は、その病名を直接記載してください。
また、すべてのがん種が対象となる場合は、「**すべてのがん**」と記載してください。

頭部／頸部	消化管	泌尿器	女性	その他
脳腫瘍 脊髄腫瘍 眼・眼窩腫瘍 口腔がん 咽頭がん・喉頭がん甲状腺がん	食道がん 胃がん 小腸がん 大腸がん GIST	腎がん 尿路がん 膀胱がん 副腎腫瘍	子宮頸がん・子宮体がん 卵巣がん その他の女性生殖器がん	後腹膜・腹膜腫瘍 性腺外胚細胞腫瘍 原発不明がん
胸部	肝臓 ／胆道 ／膵臓	男性	皮膚／骨と軟部組織	小児
肺がん 乳がん 縦隔腫瘍 中皮腫	肝がん 胆道がん 膵がん	前立腺がん 精巣がん その他の男性生殖器がん	皮膚腫瘍 悪性骨軟部腫瘍 血液・リンパ 造血器腫瘍	小児脳腫瘍 小児の眼・眼窩腫瘍 小児悪性骨軟部腫瘍 その他の小児固形腫瘍 小児造血器腫瘍

1. 【ストーマ外来】の問い合わせ窓口

1	ストーマ外来が設定されている（はい/いいえ）	いいえ
2	上記外来の名称	
3	対象となるストーマの種類	
4	対象となる疾患名	
5	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	

2. 【リンパ浮腫外来】の問い合わせ窓口

1	リンパ浮腫外来が設定されている	いいえ	(はい/いいえ)	※リンパ浮腫の研修修了者とは、厚生労働省後援のがんのリハビリテーション研修におけるリンパ浮腫研修運営委員会が策定した、「専門的なリンパ浮腫研究に関する教育要綱」にそった研修（講義45時間以上）を修了した医療従事者のことをいう。
2	研修を修了した担当者が配置されている※		(はい/いいえ)	
3	上記外来の名称			
4	対象となる疾患名			
5	リンパ浮腫の診療担当科			
6	リンパ浮腫の入院治療に対応している		(対応している/対応していない)	
7	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）			

3. 【禁煙外来】の問い合わせ窓口

1	禁煙外来が設定されている（はい/いいえ）	はい
2	上記外来の名称	禁煙外来
3	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	はい

4. 【アスベスト外来】の問い合わせ窓口

1	アスベスト外来が設定されている（はい/いいえ）	いいえ
2	上記外来の名称	

3	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	
---	---	--

5. 遺伝性腫瘍に関連した専門外来の問い合わせ窓口

1	遺伝性腫瘍外来が設定されている（はい/いいえ）	いいえ
2	上記外来の名称	
3	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	いいえ

6. 追加で記載を希望する外来について

1	追加で記載を希望する外来がある場合には、以下に疾患名等の情報を自由に記載してください。
■がんゲノム外来の問い合わせ窓口 1. 対象となる疾患名： →すべてのがん 2. 主な診療内容・特色： →遺伝子パネル検査を行い、ご自身のがん細胞のゲノム解析（変異している遺伝子を探すこと）を行うことによって、一人ひとりのがん患者さんに最も適した治療の情報を提供することを目的とします。 3. 上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス： →【見出し】がんゲノム検査外来 【アドレス】https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/dept/e10.html 4. 他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている →はい 5. 地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている →はい 【窓口の名称】医療サービス課 がん医療連携担当（がんゲノム担当） 【電話番号】096-373-5643（内線：5643） 6. 地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている	

院内がん登録部門の体制

記載の有無:入力済／未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※院内がん登録業務に携わっているスタッフを記載してください。

注1) 様式4の回答と齟齬がないようにすること。

注2) 常勤とは原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

	資格	診療情報管理業務の 経験年数 (年)	院内がん 登録業務の 経験年数 (年)	常勤 /非常勤	院内がん登録業務 についての 専従/専任/その他	がん対策情報センターによる院内がん登録 実務 初級者研修会・中級者研修会の修了状況 研修会名・受講状況
例	診療情報管理士	4	2	常勤	専従(8割以上)	初級認定者(みなし含む)
例	なし	1	1	非常勤	専任(5割以上8割未満)	初級認定試験・受験なし
1	診療情報管理士	7	18	常勤	専従	中級認定者
2	診療情報管理士	0	17	常勤	専従	中級認定者
3	診療情報管理士	6	1.5	常勤	専従	初級認定者(みなし含む)
4	なし	0	3.1	非常勤	専従	初級認定者(みなし含む)
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

臨床試験・治験の実施状況および問い合わせ窓口

記載の有無: 入力済／未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

1. 臨床試験・治験の問い合わせ窓口

令和6年9月1日時点

1) 【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口

■臨床試験に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について		窓口はない							
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口		電話		FAX		電子メール	
窓口の名称									
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し							
		アドレス							
	電話番号				(内線)				
■臨床試験に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		窓口はない							
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口		電話		FAX		電子メール	
窓口の名称									
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し							
		アドレス							
	電話番号				(内線)				

2) 【治験】の問い合わせ窓口

■治験に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある							
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	○	電話	○	FAX		電子メール	
窓口の名称		臨床試験支援センター							
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	現在実施している治験						
		アドレス	https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/chiken/gan/index.html						
	電話番号		096-373-5842		(内線)	5842			
■治験に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある							
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	○	電話	○	FAX		電子メール	
窓口の名称		臨床試験支援センター							
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	現在実施している治験						
		アドレス	https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/chiken/gan/index.html						
	電話番号		096-373-5842		(内線)	5842			

院内のチーム医療の提供体制

記載の有無:入力済／未入力あり **入力済**

病院名: 熊本大学病院

令和6年9月1日時点

1	院内に緩和ケアチームが設置されている。 (がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、診断時から一貫して行っており、緩和ケアに関する診療報酬の項目が算定できる体制であること。)	はい
2	院内に口腔ケアチームが設置されている。 (周術期等口腔機能管理に関する項目が算定できる体制であること。)	はい
3	院内に栄養サポートチームが設置されている。 (診療報酬の栄養サポートチーム加算が算定できる体制であること。)	はい
4	院内に感染防止対策チーム(感染制御チーム)が設置されている。 (感染対策に関する診療報酬の項目が算定できる体制であること。)	はい
5	院内に摂食嚥下支援チームが設置されている。 (診療報酬の摂食嚥下機能回復体制加算等が算定できる体制であること。)	いいえ
6	院内にリハビリテーションチームが設置されている。 (診療報酬のがん患者リハビリテーション料が算定できる体制であること。)	はい
7	院内に排尿ケアチームが設置されている。 (診療報酬の外来排尿自立指導料が算定できる体制であること。)	いいえ
8	院内に精神科リエゾンチームが設置されている。 (診療報酬の精神科リエゾンチーム加算が算定できる体制であること。)	はい

医療安全管理等の体制について

記載の有無:入力済／未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

- ①ー1 医療安全管理部門が配置されている。 はい (はい/いいえ)
- ①ー2 医療安全管理部門がある場合に、そのメンバーについて記載してください。(①ー1が”はい”の場合のみ、①ー2に回答してください。)
- 注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

		職種(注1)	常勤 /非常勤(注2)	専従/専任 /その他(注3)	医療安全に関する研修の受講状況(注4)		
					受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長	医師	常勤	専従(8割以上)	事例から学ぶ医療事故調査トレーニング-Advance編-	テルモ株式会社	20211211
2		医師	常勤	専任(5割以上8割未満)	2023年度 医療安全管理者養成研修	医療の質・安全学会	20230924
3		薬剤師	常勤	専従(8割以上)	2023年度 医療安全管理者養成研修	上尾中央医科グループ協議会 看護本部	20230724
4		看護師	常勤	専従(8割以上)	チーム医療安全研修会2022	国際医療リスクマネジメント学 会	20220827
5		看護師	常勤	専従(8割以上)	2023年度 医療安全管理者養成研修	上尾中央医科グループ協議会 看護本部	20230724
6		看護師	常勤	専従(8割以上)	JQ医療安全管理者養成研修	日本医療機能評価機構	20240731
7		その他	常勤	その他(5割未満)	2024年度医療事故・紛争対応人材養成 講座	医療事故・紛争対応研究会	20240728
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

- ② 第三者による評価に関する状況について記載してください。
- 要件充足としては、JCI、ISO9001、日本医療機能評価機構 病院機能評価のみ該当と整理している。
- 第三者による評価を受けていない場合は、「受審なし」と記入ください。また、最終評価日は最終受審年月日(初日のみで構いません)を記入ください。

	活用した第三者評価	最終評価日	有効期間 (定められている場合のみ記)
例	JCI	平成31年〇月〇〇日	令和7年〇月〇〇日
例	ISO9001	令和2年〇月〇〇日	令和7年〇月〇〇日
例	日本医療機能評価機構 病院機能評価	平成30年〇月〇〇日	令和7年〇月〇〇日
1	日本医療機能評価機構 病院機能評価	令和6年8月7日	令和11年6月5日(認定となった場合) ※9月1日時点、評価結果の通知待ち
2			
3			
4			
5			

緩和ケアセンターのメンバー（医師および医師以外の診療従事者）

記載の有無：入力済／未入力あり

入力済

病院名： 熊本大学病院

時期・期間： 令和6年9月1日時点

緩和ケアセンターのメンバーについて記載してください。なお、別紙8緩和ケアチームのメンバーを含めて記載して構いません。

※様式4の回答と齟齬がないように記載してください。

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4) ジェネラルマネージャーは、緩和ケアセンターの機能を管理・調整する常勤・専従、かつ院内において管理的立場の看護師であること。

注5) 相談支援に携わる者については、相談支援センターの相談支援に携わる者との兼任および、相談支援センター内にて当該業務に従事することを可とする。ただし、この場合の専任とは、緩和ケアセンターにおける相談支援業務を中心となって担当していればよく、その就業時間の5割以上を緩和ケアセンターにおける相談支援業務に従事していることは求めない。

1. 緩和ケアセンターが設定されている（はい/いいえ）

はい

2. 緩和ケアセンターの医師について（注1）

	役割	人数	診療科の内訳	
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名（※内1名は緩和ケアセンター長）、消化器外科1名	
	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名（※内1名は緩和ケアセンター長）、婦人科1名	※都道府県がん診療連携拠点病院は、1名以上配置必須
	精神症状の緩和に携わる医師	1	神経精神科1名	※都道府県がん診療連携拠点病院は、1名以上配置必須

3. 緩和ケアセンターの看護師について（ジェネラルマネージャーおよび専門資格を有する者のみ記載してください。）

	センターでの役割	常勤/ 非常勤（注2）	専従/専任 /その他（注3）	専門資格 （がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師等）	
1	ジェネラルマネージャー（注4）	常勤	専従（8割以上）	がん看護専門看護師	※都道府県がん診療連携拠点病院は、1名以上配置必須
2	ジェネラルマネージャーではない看護師	常勤	専従（8割以上）	がん性疼痛看護認定看護師	※都道府県がん診療連携拠点病院は、2名以上配置必須
3	ジェネラルマネージャーではない看護師	常勤	専従（8割以上）	緩和ケア認定看護師	
4	ジェネラルマネージャーではない看護師				
5	ジェネラルマネージャーではない看護師				
6	ジェネラルマネージャーではない看護師				
7	ジェネラルマネージャーではない看護師				

4. 薬剤師について

	センターでの役割	常勤/ 非常勤（注2）	専従/専任 /その他（注3）	専門資格 （がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師等）	
1	薬剤師	常勤	専任（5割以上8割未満）		※都道府県がん診療連携拠点病院は、1名以上配置必須
2	薬剤師				
3	薬剤師				

5. 専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者について（注5）

	センターでの役割	常勤/ 非常勤（注2）	専従/専任 /その他（注3）	専門資格	
1	専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者	常勤	専任		※都道府県がん診療連携拠点病院は、1名以上配置必須
2	専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者				

3	専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者			
---	----------------------------	--	--	--

6. 緩和ケアセンターの医師・看護師・薬剤師・専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者以外の診療従事者について

	職種	常勤/ 非常勤(注2)	専従/専任 /その他(注3)	専門資格(取得している場合)
8	医療心理に携わる者	常勤	専従(8割以上)	公認心理師
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について

記載の有無：入力済／未入力あり／不要 不要

特定領域がん診療連携拠点病院が記入

病院名： 熊本大学病院

期間： 令和5年1月1日～12月31日

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について、都道府県内で最も多くの患者を診療していることを明記し、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。
このシートのほかに資料がある場合は、**ファイル名の頭に別紙22を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／エクセル／パワーポイント／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

特定のがん種

年間新入院患者数

年間新入院当該がん患者数

年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合

年間外来当該がん患者のべ数

年間院内死亡当該がん患者数

当該がんに係る年間の手術件数

当該がんに対する年間の化学療法件数

※経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。

当該がんに係る年間の放射線治療件数

※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。

人

人

%

人

人

件

件

件

特定のがん種

年間新入院患者数

年間新入院当該がん患者数

年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合

年間外来当該がん患者のべ数

年間院内死亡当該がん患者数

当該がんに係る年間の手術件数

当該がんに対する年間の化学療法件数

※経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。

当該がんに係る年間の放射線治療件数

※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。

人

人

%

人

人

件

件

件

特定のがん種

年間新入院患者数

年間新入院当該がん患者数

年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合

年間外来当該がん患者のべ数

年間院内死亡当該がん患者数

当該がんに係る年間の手術件数

当該がんに対する年間の化学療法件数

※経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。

当該がんに係る年間の放射線治療件数

※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。

人

人

%

人

人

件

件

件

がん診療連携拠点病院等との連携診療体制について

記載の有無:入力済／未入力あり／不要

不要

特定領域がん診療連携拠点病院が記入

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制について、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙23を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／エクセル／パワーポイント／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

【緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制】



特定領域がん診療連携拠点病院の人材交流について

記載の有無: 入力済 / 未入力あり / 不要

不要

特定領域がん診療連携拠点病院が記入

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和5年1月1日～12月31日

※他の拠点病院等との人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入／派遣	期間	職種	(受入元／派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和5年4月1日～9月30日	看護師	XX病院	がん看護認定看護師
例	派遣	令和5年10月1日～12月31日	医師	YY病院	上部消化器外科
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

グループ指定の状況

記載の有無:入力済／未入力あり／不要

不要

地域がん診療病院が記入

病院名: 熊本大学病院

■グループ指定のがん診療連携拠点病院との定期的なカンファレンスの開催実施件数

期間: 令和5年1月1日～12月31日

■グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携と役割分担の状況

時期: 令和6年9月1日時点

	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

グループ間の人材交流計画について

記載の有無: 入力済／未入力あり／不要

不要

地域がん診療病院が記入

病院名: 熊本大学病院

時期・期間: 令和5年1月1日～12月31日

※グループ指定施設間での人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入／派遣	期間	(受入元／派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和5年4月1日～9月30日	XX病院	消化器外科
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

グループ指定の状況

がん診療連携拠点病院が記入

記載の有無:入力済／未入力あり／不要 不要

病院名: 熊本大学病院

■グループ指定を受ける地域がん診療病院との連携と役割分担の状況

時期・期間: 令和6年9月1日時点

	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

都道府県協議会の内容

記載の有無：入力済／未入力あり／不要

入力済

都道府県がん診療連携拠点病院が記入

病院名：熊本大学病院

時期・期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

※同一都道府県に複数の都道府県がん診療連携拠点病院が整備されている場合は、都道府県内で回答内容に齟齬が生じないよう

令和5年度に開催した都道府県協議会について記載してください。

- (1) 患者本位のがん医療を実現する等の観点から、当該都道府県における対策を強力に推進するための議論を行った。
- (2) 都道府県全体のがん医療等の質の向上のために、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すべく、以下の議論を行った。
- ① 地域の実状に応じて、医療機関間の連携が必要な医療等について、都道府県内の各拠点病院等及び他のがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知した。
- ② 地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院とのグループ指定の組み合わせを調整・決定した。
- ③ 都道府県内の拠点病院等の院内がん登録のデータやがん診療、緩和ケア、相談支援等の実績等を共有、分析、評価、公表等を行った。
- ④ 院内がん登録実務者の支援を含めて都道府県内のがん関連情報収集や利活用等の推進に取り組んだ。
- ⑤ 当該都道府県における特定機能病院である拠点病院等と連携し、地域におけるがん診療に従事する診療従事者の育成及び適正配置に向けた調整を行った。
- ⑥ 整備指針Ⅱの4の(3)に基づき当該都道府県における拠点病院等が実施するがん医療に携わる医師等を対象とした緩和ケアに関する研修やその他各種研修に関する計画を作成している。
- ⑦ 当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者支援団体、在宅医療等へのアクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報している。
- ⑧ 国協議会との体系的な連携体制を構築している。
- ⑨ 国立がん研究センターによる研修に関する情報や国協議会での協議事項が確実に都道府県内で共有・実践される体制を整備している。
- ⑩ 感染症のまん延や災害等の状況においても必要ながん医療を提供する体制を確保するため、当該都道府県や各がん医療圏におけるBCPについて議論を行った。
- ⑪ 地域における医療情報の共有の取組について、がんの分野からも検討し、体制整備に取り組んでいる。

都道府県レベルで役割分担すべき項目(※)について議論した。

【参考】

- 令和5年4月1日～令和6年3月31日に開催した都道府県協議会の参加者について
- 同一都道府県内の全ての拠点病院等が参加した
- 都道府県庁等の行政の参加があった
- 拠点病院等以外の地域のがん診療を行う者の参加があった
- 小児がん診療の立場から、小児がん拠点病院等(小児がん拠点病院、小児がん連携病院)の参加があった
- がん患者・経験者やその家族や患者団体等の意見を代表する者の参加があった

- 都道府県協議会の広報体制について
- 都道府県協議会についてわかりやすく広報を行うためのWebサイトがある。
- Webサイトや、冊子等で、都道府県協議会で議論された内容を広報している。

WebサイトのURL

- 令和5年4月1日～令和6年3月31日に開催した都道府県協議会での議論の内容について
- 都道府県協議会の議題や議事録等、議論の内容がわかる資料を提出すること。(ファイル名の頭に別紙28を付けること)

(※) 都道府県レベルで役割分担すべき項目は以下である。

- 以下の例のうち、都道府県協議会での議論の有無について
- ア 一部の限定的な医療機関でのみ実施される薬物療法
- イ 集約化することにより予後の改善が見込まれる手術療法
- ウ 強度変調放射線療法や密封小線源療法、専用治療室を要する核医学治療等の放射線治療、高度で特殊な画像下治療(IVR)
- エ 緩和ケアセンター、緩和ケア病棟、ホスピス、神経ブロック、緊急 緩和放射線治療等の緩和医療
- オ 分野別に希少がん・難治がんの対応を行う体制
- カ 小児がんの長期フォローアップを行う体制
- キ AYA世代のがんの支援体制
- ク がん・生殖医療(別途実施されている「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」)におけるがん・生殖医療ネットワークと協働して実施。
- ケ がんゲノム医療

地域連携の推進体制(歯科との連携)について

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 熊本大学病院

時期: 令和6年9月1日時点

地域連携の推進体制のうち、歯科との連携について、必要に応じて図等を用いてわかりやすく説明してください。
このシートのほかに資料がある場合は、**ファイル名の頭に別紙〇を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

1. 院内の口腔ケアチームのメンバーの職種及び人数について

院内に口腔ケアチームを設置している場合、記入すること。
地域の歯科医師等と連携している際は、そのことがわかるように備考欄に記入をお願いします。

	職種	人数	備考欄: 院外との連携の際は連携先を記載ください(例: 郡市歯科医師会と連携 / 近隣の歯科医師と個別に連携 等) なお、特段記載事項がない場合は空欄としてください。
例	歯科医師	2	近隣の歯科医師と個別に連携
1	歯科医師(院内)	1	口腔ケアチームではなく『周術期口腔機能管理』という診療枠にて口腔ケアを行っており、他院における口腔ケアチームに該当します。外来に常駐する歯科医師が毎週月曜と木曜日の午後に交代で診察枠を担当しており、必要に応じて往診で診察も行ってい
2	歯科衛生士(院内)	2	毎週月曜日と木曜日に診察枠を設け、上記の歯科医師の指示の基で口腔機能管理(口腔ケア)にあたっています。口
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

2. 歯科との連携体制の有無について

(1) 院内に歯科の診療科がある。 (はい/いいえ)	はい	
(2) 口腔機能が低下したがん患者に対して口腔機能の評価や改善のために歯科との連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築 / 地域の歯科医師と連携体制を構築 / 院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築 / 連携体制を構築していない)	院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築	
(3) 周術期におけるがん患者の口腔健康管理について歯科との連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築 / 地域の歯科医師と連携体制を構築 / 院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築 / 連携体制を構築していない)	院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築	
(4) 栄養サポートチームに歯科が参加する連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築 / 地域の歯科医師と連携体制を構築 / 院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築 / 連携体制を構築していない)	院内の歯科医師と連携体制を構築	
(5) 緩和ケアチームに歯科が参加する連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築 / 地域の歯科医師と連携体制を構築 / 院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築 / 連携体制を構築していない)	院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築	
(6) 上記(2)～(5)において地域の歯科医師と連携体制を構築している場合、連携している地域(院外)の歯科医療機関数	471	施設
(7) 上記(2)～(5)において歯科と連携体制を構築している場合、どのような連携体制を構築しているかそれぞれ記載してください。 院内連携では緩和ケアチーム回診時に歯科医師も一緒に回診。回診患者の口腔観察、口腔ケアのアドバイス、必要時は診察、処置を実施している。地域との連携では患者が歯科の情報が得られやすいように緩和ケアセンターHPで歯科・診療所を掲載し、情報提供をしている。		
(8) 上記(2)～(5)以外において歯科と連携体制を構築している場合、どのような連携体制を構築しているか記載してください。 周術期における口腔管理に含まれない、終末期の患者の口腔内症状や専門的口腔ケアについても診療科から歯科医師にコンサルトを行い連携して診療を行っている。		